

第1 本県の水産業の概要

第1 本県の水産業の概要

1 自然

(1) 位置、海岸線

本県は、九州の南端に位置し、南北約600kmにわたる広大な県土を有し、九州本土に属する薩摩、大隅両半島及び甑島、宇治群島、黒島、竹島、硫黄島、種子島、屋久島、トカラ列島、奄美群島等の多くの島嶼からなっている。海岸線は、その延長が2,664kmに達し、全国3位である。沿岸線は、長大な砂丘地帯を形成する吹上浜、志布志湾を除いて、曲折が厳しく急峻なところが多い。

(2) 海流等

黒潮は、沖縄本島の西側を通過し、大陸棚沿いに流れ、屋久島と奄美大島の間の特カラ海域を越えたのち、種子島東部から四国沖合の太平洋上に流れている。奄美大島の北西海上では、黒潮の一部が分かれ、対馬暖流となって甑島西沖から五島列島の沖合海上に流れている。また、大隅海峡には、黒潮の離接岸により大隅分枝流と言われる東方への強い流れがあり、西薩沿岸には甑島南下水、大隅東部には日向冷水（南下水）がある。また、時期によっては黒潮の流路等により、草垣冷水や種子島冷水などが発生する。

(3) 気象

これら暖流の影響もあり、気候は温暖で、鹿児島市における平均気温は約19℃、降水量は約2,100mmに達する。また、夏季から秋季にかけては南太平洋上に発生する台風が北上する通路に当たるため、漁港、漁船、漁具の被害が毎年のように発生している。このほか、冬季の季節風は、漁船漁業の操業に支障を与えている。

2 地域の特性

(1) 北薩・甑島地域（八代海～薩摩川内市周辺海域／甑島周辺海域）

八代海や阿久根市、川内沖には遠浅の海域が多く、マダイ・ヒラメ・クルマエビ等を対象としたごち網・さし網・一本釣り漁業をはじめ、アジ・サバ・イワシ類を対象としたまき網・棒受網漁業が営まれているほか、川内沖ではシラス（カタクチイワシの仔魚）を対象としたバッチ網（機船船びき網）漁業、長島ではトサカノリ、阿久根ではウニ等の採介藻漁業も営まれている。長島周辺では、ブリ等の魚類養殖業や真珠養殖業のほか、ヒトエグサ・アサクサノリの海藻養殖業も盛んである。甑島では、対馬暖流と沿岸水が混合して、好漁場が形成され、ブリ・アジ等を対象とした定置網漁業をはじめ、キビナゴやバショウカジキの流し刺網や一本釣り漁業等のほか、アワビ等の採介藻漁業が営まれている。また、川内川・米ノ津川・高松川等では、ウナギ・アユ・モクズガニ等を対象とした内水面漁業や、その周辺地域ではウナギ養殖業、上流部ではニジマス養殖業が営まれている。

(2) 西薩・南薩地域（いちき串木野市～南さつま市～指宿市開聞周辺海域）

西薩海域では、比較的遠浅で瀬礁が少ないことから魚礁を漁場として利用するごち網漁業をはじめ、ヒラメ等を対象とした刺網・漁業のほか、バショウカジキやサワラを対象とした流し刺網漁業やシラスを対象としたバッチ網漁業などが営まれている。また、いちき串木野市では、遠洋まぐろはえ縄漁業によるミナミマグロなどのマグロ類の生産地となっている。南薩海域では、定置網漁業のほか、磯建網（固定式刺網）漁業やキビナゴ流し刺網漁業、ブリ飼付け漁業、カツオ・ヨコワ等のひき縄漁業、トサカノリの採藻漁業が営まれている。水深400m前後の沖合海域では、ヒゲナガエビを対象とした小型機船底びき網漁業が営まれているほか、枕崎では、遠洋かつお一本釣り漁業が営まれ、カツオやピンナガの一大生産地となっている。万之瀬川等では、コイ等を対象とした内水面漁業が営まれている。

(3) 鹿児島湾地域（指宿市山川～南大隅町佐多周辺海域）

鹿児島湾は、最深部で200m以上の水深を有する閉鎖的な内湾で、マダイ・アジ・イトヨリ等を対象とした一本釣・はえ縄漁業をはじめ、エビや底魚等を対象とした小型機船底びき網漁業やキビナゴやバショウカジキの流し刺網、小型定置網漁業のほか、かつお一本釣用の餌としてのカタクチイワシを対象とした小型まき網漁業等が営まれている。また、静穏な海域特性を生かし、湾内各地でカンパチ・ブリ等の魚類養殖業が盛んである。さらに、マダイ・ヒラメ等の種苗放流による栽培漁業も定着している。一方、天降川等では、アユ等を対象とした内水面漁業が営まれている。

(4) 大隅地域（志布志市～肝付町～南大隅町佐多周辺海域）

本地域は、沖合水と沿岸水が混合し、アジ・サバ・イワシ類・ブリ等を対象としたまき網・定置網漁業をはじめ、エビ類・コウイカ・ハモ・ヒラメ・底魚等を対象とした小型機船底びき網漁業、志布志湾では、シラスを対象としたバッチ網漁業等が営まれている。

岩礁域では、イセエビ等を対象とした磯建網漁業やトサカノリ等の採介藻漁業が営まれているほか、内之浦湾や高山地区では、ブリ・カンパチ等の魚類養殖業も盛んである。また、全国有数の養殖ウナギ産地となっているほか、志布志湾に注ぐ河川等においてはシラスウナギの採捕も盛んである。

(5) 熊毛・三島・十島地域（熊毛・薩南～トカラ周辺海域）







本地域は、外海に面した多くの離島からなり、島嶼の周囲は岩礁地帯や天然の瀬礁に恵まれ、また、黒潮の影響で回遊性魚類も多いため、近海に好漁場が形成されている。主な漁場として、アオダイ・ウメイロ・ハマダイ・メダイ等の瀬物類やサバ・アジ・カツオ・マグロ類・カンパチ・タイ類、アオリイカ等を対象とした一本釣・ひき縄漁業をはじめ、トビウオロープびき漁業やキビナゴ流し刺網漁業、イセエビ・アサヒガニ等を対象とした網漁業のほか、地域特産種であるトコブシの磯根漁業なども営まれている。また、種子島と屋久島では、クルマエビの養殖業も営まれている。

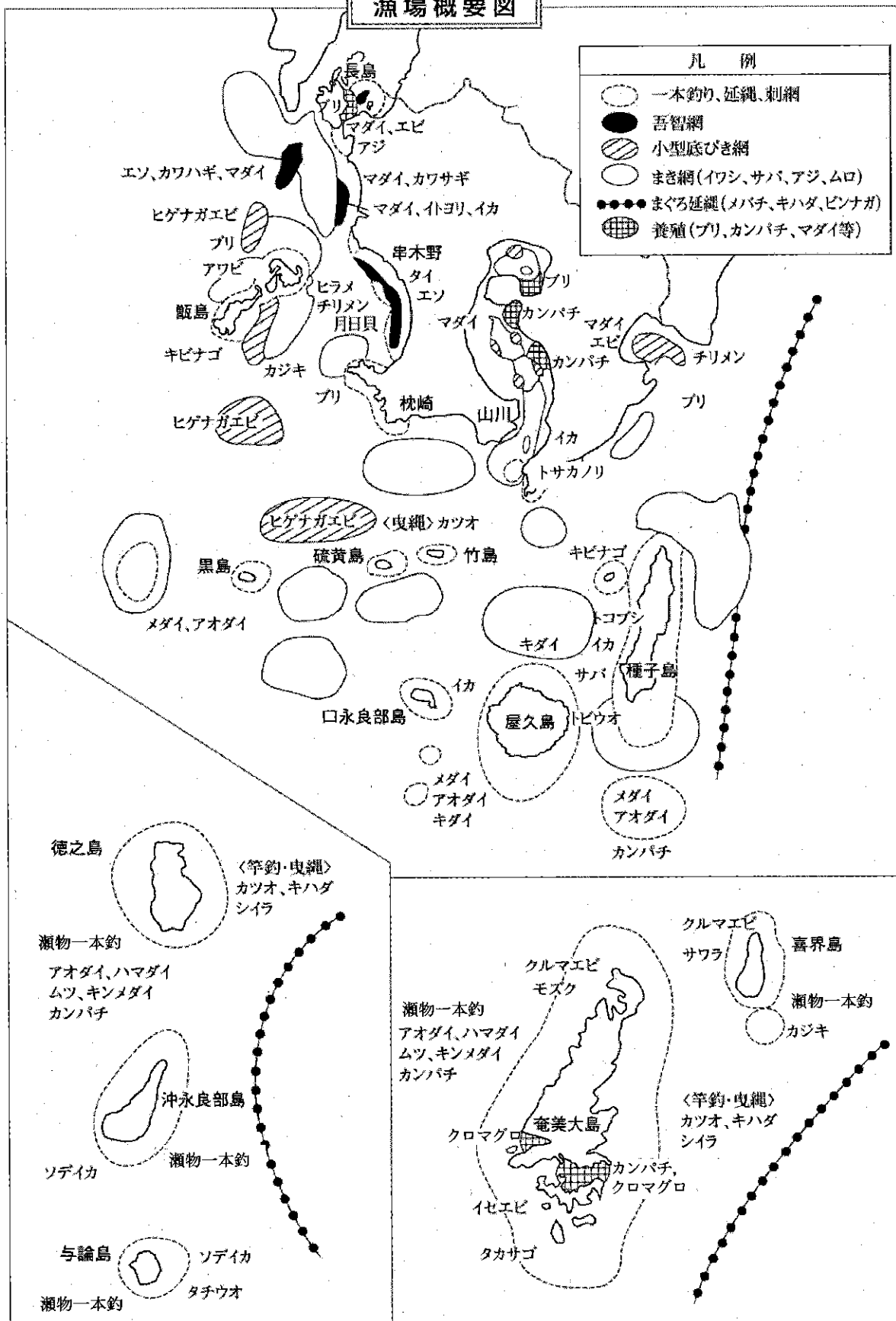
(6) 奄美海域（奄美群島周辺海域）

本地域は、島の周囲を珊瑚礁に囲まれた島々が南北に連なり、その西側沖合を黒潮が流れ、その影響で回遊性魚類も多く、近海に好漁場が形成されている。主な漁業としては、カツオ・マグロ・サワラ等の回遊性浮魚類を対象とした一本釣・ひき縄漁業をはじめ、アオダイ・ハマダイ・キンメダイ・ムツ・メダイ・カンパチ・ハタ類等の瀬物類を対象とした一本釣漁業が営まれている。一方、沿岸域では、イセエビ類、ブダイ類、ヤコウガイ等を対象とした潜水漁業、タカサゴ、スズメダイ等を対象とした追込網、刺網漁業等の漁業が営まれている。近年は、沖合に設置された浮魚礁でのカツオ・マグロ一本釣漁業やソデイカ旗流し漁業が盛んである。また、温暖で静穏な海域特性を有する大島海峡等では真珠養殖業やカンパチ・クロマグロ等の魚類養殖業が営まれているほか、クルマエビ養殖業や、モズクやヒトエグサを対象とした海藻養殖業も営まれている。

漁場概要図

凡例

-  一本釣り、延縄、刺網
-  吾智網
-  小型底びき網
-  まき網(イワシ、サバ、アジ、ムロ)
-  まぐろ延縄(メバチ、キハダ、ビンナガ)
-  養殖(ブリ、カンパチ、マダイ等)



鹿児島県主要指標 (平成21年)

項目	単位	全国	鹿児島	全国順位	備考
漁業経営体数	経営体	115,196	4,401	8位	平成20年
海面漁業					
生産量	トン	4,147,374	73,009	16位	
生産額	億円	9,716	219	14位	
海面養殖業					
生産量	トン	1,202,072	56,404	10位	
生産額	億円	4,095	491	2位	
内水面養殖業生産量	トン	40,927	7,550	2位	
漁港数		2,916	139	5位	
総漁船数	隻	298,858	11,015	8位	
海岸線延長	km	35,643	2,664	3位	
面積	km ²	377,947	9,188	10位	
構成島数		6,852	605		
		(うち有人314)	(うち有人28)	4位	
離島総面積	km ²	7,575	2,485	1位	

本県の主な水産物が全国に占める地位 (平成21年)

(単位:トン)

魚種名・品名	全国順位	全国生産量	本県生産量	全国シェア	備考
(海面漁業)					
みなみまぐろ	3位	2,357	423	17.9%	1位 静岡
あじ類	3位	192,122	8,618	4.5%	1位 長崎
あかいか	2位	35,993	8,683	24.1%	1位 青森
(養殖業)					
ぶり類	1位	154,943	51,000	32.9%	2位 愛媛
ひらめ	3位	4,654	714	15.3%	1位 大分
うなぎ	2位	22,406	7,358	32.8%	1位 愛知
(加工品)					
かつお節	1位	36,005	25,012	69.5%	2位 静岡